

平成23年3月31日現在

研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2006～2009
課題番号：18320031

研究課題名（和文）近世風俗画の絵画史料論的研究
研究課題名（英文）Research on Early Modern Genre Painting as Historical Documents

研究代表者
奥平 俊六（OKUDAIRA SHUNROKU）
大阪大学・文学研究科・教授
研究者番号：30167324

研究成果の概要（和文）：本研究では、16世紀から17世紀の近世初期の風俗を主題とする絵画について、各主題の画像データを蓄積、整理、分析した。邸内遊楽図、南蛮屏風、祭礼図の基礎的研究、および画像から漆器や染織を考察する研究について先鞭をつけ、多くの成果をあげた。また、大阪大学所蔵の近世絵画の画像データも集成した。

研究成果の概要（英文）：The present study accumulated, categorized, and analyzed detailed images of various subjects of Early Modern Genre Painting produced from the 16th century to the 17th century. The analysis established the fundamental parameters of research for paintings of indoor amusements (teinai yuraku zu), Nanban screens, and festival paintings. Furthermore, the present study established a standard approach for the analysis of material culture, such as lacquerware and costume, as they are depicted in Early Modern Genre Painting. Furthermore, the study compiled a photographic archive of Early Modern Genre Painting in the collection of Osaka University.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,200,000	0	1,200,000
2007年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2008年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2009年度	2,500,000	750,000	3,250,000
年度			
総計	5,900,000	1,410,000	7,310,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学、美学・美術史

キーワード：絵画史料、近世風俗画、南蛮屏風、祭礼図

1. 研究開始当初の背景

(1) 日本近世に描かれた風俗画の豊かな描写内容は、歴史資料として徐々に注目されるよ

うになってはいたが、研究レベルでは、一部の洛中洛外図屏風や江戸図屏風などしか有効に用いられていなかった。

(2)美術史学、歴史学をはじめ、近接する諸領域において、伝存遺品の多い近世風俗画の使用が、中世の作品に比べてはるかに少なかった。

(3)大阪大学所蔵の近世絵画、およびストックされてきた実撮スライドの画像公開が進んでいなかった。

2. 研究の目的

(1)大阪大学所蔵の近世絵画の画像データを整理し、公開する。

(2)大阪大学でストックされてきた、風俗画の部分を撮影したスライドをデジタルデータ化する。

(3)欧米所蔵の作品も含めて、新たに重要な風俗画の画像データを収集し、近世初期風俗画の絵画史料集成を構築する。

(4)描かれた風俗の内容の意味を、ひとつの作例の内側に求める段階を超えて、複数の作例に共有される絵画史料のあり方として考察する。

(5)漆工や染織あるいは陶磁器など工芸分野の研究に、風俗画の絵画史料を具体的に用いていく。

3. 研究の方法

(1)武家邸内遊楽図について、萬徳寺本を中心に風俗情報を考察する。あわせて、邸内遊楽図の基礎資料を集成する。

(2)大阪大学所蔵の近世絵画について、画像データをデジタル化し整理する。データの無いものは新撮する。

(3)本光寺所蔵「日ぐらしの屏風」など、貴重な風俗画画像のデジタル化をするとともに、描かれた内容の名付けを進める。

(4)南蛮屏風の画像データを整え、南蛮屏風集成に反映させる。集成編纂後の新出作品の画像データを収集する。

(5)祇園祭礼図、豊国祭礼図、賀茂競馬図など祭礼図、および祭礼場面を描き込んだ洛中洛外図など都市風俗画の画像データについて、欧米所蔵の作例も含めて新規調査を進め、集成する。

(6)集成した画像データを、研究論文におい

て例示的に活用する。

4. 研究成果

(1)邸内遊楽図、南蛮屏風、祇園祭礼図、豊国祭礼図、賀茂競馬図等の絵画史料集成の構築を達成した。これには、欧米で新たに見出した複数の洛中洛外図の画像データも含まれている。

(2)大阪大学所蔵の近世絵画作品の画像データを整理集成した。

(3)本光寺所蔵「日ぐらしの屏風」の画像データを集成し、描写内容について名付けを行った。

(3)泉、日高、澤田は、図書④の編纂において新出本を多数含む南蛮屏風に関する最も基礎的な研究書を達成した。

(4)泉は、図書⑥において、武家邸内遊楽図に関する初めての研究書、図録⑥を著した。

(5)奥平は、図書②において、岐阜総合科学技術大学の関口敦仁氏の開発した優れたビューワーソフトを用いて、1つの洛中洛外図の精密な画像を、その解説文字データとともに一般に提供する試みを行った。

(6)澤田は、雑誌論文①②⑤⑦⑧などにおいて、本研究で集成した風俗画の画像をふんだんに用いて、染織に関する新たな考察を行った。

(7)日高は、雑誌論文③④において、本研究で集成された風俗画の画像をふんだんに用いて、漆芸に関する新たな考察を行った。なお、日高の著した図書③は、輸出漆器に関する具体的で広汎な考察が評価され、第20回国華賞を受賞した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計14件)

- ① 澤田和人、男性の小袖丈—洛中洛外図屏風にあらわれた風俗、歴博、査読無、164号、2011、11-15
- ② 澤田和人、慶長小袖の時代性—中国・韓国の染織品と比較して、アジア遊学、査読無、132号、2010、214-228
- ③ 日高薫、美術資料に歴史を読む—漆器と

洛中洛外図、歴史研究の最前線、査読無、
Vol.11、2009、6-42

- ④ 日高薫、異国へ贈られた漆器—天正遣欧使節の土産物、国立歴史民俗博物館研究報告、査読有、第141集、2008、97-116
- ⑤ 澤田和人、近世の服飾にみる葦手の展開、和歌と貴族の世界—うたのちから、塙書房、査読無、2007、239-253
- ⑥ 奥平俊六、桃山風俗画の誕生と展開、別冊太陽、査読無、通巻145、2007、76-83
- ⑦ 澤田和人、帷子の基礎的研究、国立歴史民俗博物館研究報告、査読有、第125集、2006、69~99頁
- ⑧ 澤田和人、モノが語るヒトの営み—中世の様染・幻の辻が花、日経サイエンス、査読無、通号417、2006、66-69
- ⑨ 泉万里、最初の「南蛮屏風」、国文学、査読無、51巻、11号、2006、79-89

[学会発表] (計8件)

- ① 泉万里、金剛峯寺に所蔵される「山水屏風」について、掛幅縁起研究会、2009.11.12、東京・学習院大学
- ② 奥平俊六、描かれた芸能—室町から江戸初期の能舞台、「国立能楽堂展」記念講演、島根・石見美術館、2008.5.18
- ③ 泉万里、屏風をかざる雲母と金銀、「B I O M B O展」記念講演、大阪・大阪市立美術館、2007.12.1
- ④ 泉万里、中世障屏画の箔と雲母による装飾の変遷、かざり研究会、かざり研究会、京都・箔屋野口、2007.9.9
- ⑤ 泉万里、「月次祭礼図模本」補遺、芸能史研究会東京例会、2006.12.1、東京・早稲田大学

[図書] (計9件)

- ① 奥平俊六、成澤勝嗣、日高薫、梶山博史、東京美術、すぐわかる人物・ことば別桃山時代の美術、2009、144
- ② 奥平俊六、関口敦仁、淡交社、デジタル洛中洛外図島根県美本、2009、64
- ③ 泉万里、辻惟雄、泉武夫、新書館、日本

美術史ハンドブック、2009、80-81、91-94、100-103、107

- ④ 日高薫、ブリュケ、異国の表象—近世輸出漆器の創造力、2008、475
- ⑤ 坂本満、泉万里、成澤勝嗣、日高薫、澤田和人、中野満美子、中央公論美術出版、南蛮屏風集成、2008、400
- ⑥ 泉万里、角川学芸出版、光をまとう中世絵画—やまと絵屏風の美、2007、206
- ⑦ 泉万里、大阪大学出版会、武家屋敷の春と秋—萬徳寺所蔵「武家邸内遊楽図屏風」、2007、82

[その他]

ホームページ等

(展覧会図録、解説等)

- ① 泉万里、特集 海辺の原風景 浜松図屏風の観かた楽しみかた、なごみ、淡交社、3-13、15-31、33-37、2011
- ② 澤田和人、国立歴史民俗博物館、「染」と「織」の肖像—日本と韓国・守り伝えられた染織品、2008、208

6. 研究組織

(1) 研究代表者

奥平 俊六 (OKUDAIRA SHUNROKU)

大阪大学・文学研究科・教授

研究者番号：30167324

(研究代表者：2008-2009)

(研究分担者：2006-2007)

泉 万里 (IZUMI MARI)

大阪大学・総合学術博物館・教授

研究者番号：60243135

(研究代表者：2006-2007)

退職に伴い、2008年度より研究組織

から削除

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者

日高 薫 (HIDAKA KAORU)

大学共同利用機関・国立歴史民俗博物館・

教授

研究者番号：80230944

(研究分担者：2006-2007)

(連携研究者：2008-2009)

澤田 和人 (SAWADA KAZUTO)

大学共同利用機関・国立歴史民俗博物館・

准教授

研究者番号：80353374

(研究分担者：2006-2007)

(連携研究者：2008-2009)

豊田二郎 (TOYODA JIROU)

大阪大学・総合学術博物館・准教授

研究者番号：70249952

(研究分担者：2006-2007)

(4) 研究協力者

なし